

日時 2月14日(火)

内容 (1)講義

講師 京都府総合教育センター 研究主事兼指導主事 植田 博樹

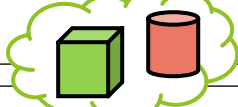
(2)研修受講者から実践発表

発表者 亀岡川東学園 教諭 松岡 知弘

※府総合教育センターと市教育委員会の連携による

研修講座「小学校算数4年」の出前講座を受講

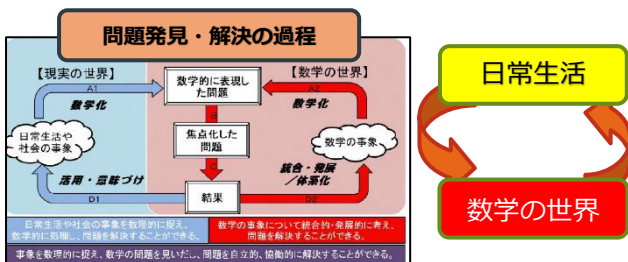
(3)研究協議、まとめ



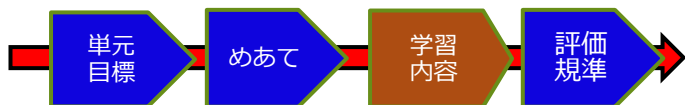
(1)講義内容

「小学校算数指導でいま求められていること」

○算数科における学びの過程・特質を理解する。



○単元目標、授業のめあて、評価規準を明確にもつ。



学習内容はゴールに向け、合致しているか

○「教師の思考の流れ」は、「児童の思考の流れ」とズレ

既習事項と学習内容（本時）のズレ

児童の実態をつかむこと

児童が主体者に

(2)実践発表

○授業力をつけたい

勤務校が単級

授業づくりにじっくり話せる場を

実践の視野を広げたい

○「割合」での指導実践から

他社の教科書を調べる

系統性を考える

発展的な学習内容を取り入れる

目標の吟味、学習のゴール

○自身の学び

内容を焦点化

ゴールを明確にすることで細やかな指導が可能に

山場で立ち止まることで多くの児童が授業参加へ

○学校の研究主題

「自分ごと」として学ぶ子ども

○授業動画の紹介

変わり方のきまり

式で表せないかな？

中2の課題だけ

おおー！すごい！

授業って楽しい！



学び続ける教員

逆向き設計

<参加者の感想>

子どもから出てきた疑問を子どもの感じているズレとしてとらえて、授業の中で活用していくなど、授業づくりの根底としていくべきことを改めて考えさせられた。

主体的

教材研究はいつも研修後に大切だと再確認するのですが、その時間がないのが一番の問題点だと思いました。「子ども目線の疑問からめあてを作り出す」→大事だと思うので、1年～6年までのめあての作り方を研究していくのがよいと思う

児童も



対話的

子どもの実態からスタートし、子どもの姿を生かして授業改善を行うことにおいて、以前から言われていたことではありますが、改めて身の引き締まる思いで話を聞かせていただきました。特に、めあての設定においては、教師主導にならないように子どもの声を聞いてめあてを持たせることによって、より意欲的な児童の姿が見られるのではないかと思います。

毎日の授業のめあてについて深く考えるきっかけになりました。また、同じ4年生担当の先生とお話することができ、とても有意義な時間でした。

教員も

授業の構成の工夫によって、子どもたちがとても意欲的に学んでいる様子を見て、自分の授業でもあのような楽しい授業をしたいと感じました。子どもたち同士で意見を交流させたり、子どもの言葉で説明させる機会をもっと増やしていきたい。

「算数は好き、楽しい」と感じられるような子どもをこれからも育てていきたい。貴重な発表の場をいただきありがとうございました。

子どもの可能性を

まず問題に出会わせてそれからめあてを共有するということ

深い学び

松岡先生の授業の様子を見せていただき、「自分達の手で(ひらめきで)きまりをみつける」「自分達の手で(ひらめきで)解き方をみつける」ことが算数への意欲・関心を高め、頭に残り力が伸びるのだと改めて感じました。児童の頭や心が動く授業づくりに努めたいです。